

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4292100031		
法人名	（有）弦観光		
事業所名	グループホーム吉崎の郷		
所在地	長崎県吉崎市石田町筒城東触1840－3		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	平成27年6月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節感のあるイベントや食べ物などが毎月あり、メニューも豊富である。家族会など開き、家庭的な雰囲気、安心して、楽しく、自由に、ありのままに過ごして頂けるように努めている。広報も年3～4回発行し、施設外にも積極的に出ている点。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム理念とともに、代表と職員は利用者の「自立」と「尊厳」を基本に日々支援している。職員は利用者が自ら行動ができるために必要な事を、支援目標として身近なことから実践している。日々体操を継続することで、車椅子利用者が介助により立位が確保できるようになった事例がある。体力の回復は、利用者の意欲向上と職員と利用者の信頼関係に繋がっている。職員は利用者毎にできることを見極め、日常生活の役割として取り組めるよう、職員同士話し合い支援の統一を図っている。利用者の希望などの情報を共有し、職員はフットワークの軽さを活かし、多くの外出支援を実現しており、本人・家族の満足度が高まっている。運営推進会議や家族会を通じ、地域と家族との協力体制が整っており、互いの意見やアイデアを積極的に取り上げ、サービスの質の向上に積極的なホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム 壱岐の郷
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作ることはできた。個々を大切にしてい て、共有、実践に心がけているが、実行でき ているか難しいところもある。	代表が作成した理念と、全職員で作成した3項目 からなる介護理念がある。ホームは職員が理念に 沿った介護を実践できるよう、認知症についての 勉強会を行い全体で共有している。職員も理念を 暗記しており常に頭におきながら、一つ一つのケ アの実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、 事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、地域の行事、イベントには 積極的に参加しようと心がけているが、十分 ではない。大切ではあるという意識はあるの で、今後も取り組んでいきたい。	自治会に加入しており回覧板も届いている。代表 が公民館の総会に出席した際、ホームの状況を 報告している。近隣住民の畑を借りて野菜を育て たり、耕してもらったりする関係がある。日頃から 地域に出向き、互い協力関係を築けるよう挨拶を 交わす等交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の 理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしてい る	地域の方との交流はあまりない。散髪や芋 掘りで会うくらいだが十分ではない。地域の方 が入所したくなるような介護がしたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価へ の取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そ こでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容は、他の職員も周知できるよう に、厳しい意見も生かしながらサービス向上 に努められるように話し合っている。	2ヶ月毎、行政や公民館長、婦人会長等のメン バーで開催している。会議開催日を全員が出席で きる日時に設定しており、ホーム状況報告後、参 加者による活発な意見交換がある。災害対策等 については専門的な意見が出るなど、改善に取り 組みサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実 情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、 協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことがあれば聞いたりして情報を 共有している。広報も送ったりして様子を伝 えている。	行政とは不明な事があれば連絡を取り合う等、密 な関係性を築いている。行政から研修案内が届い ており管理者と職員は参加している。地域包括支 援センターとも「認知症相談先のチラシ」を事業所 に置く等、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止 の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関 の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでい る	身体拘束は基本的にはしていない。やむを 得ないときは家族の同意をとり実施してい る。現在はトイレ介助用にセンサーマット使 用している方が一人おられる。	身体拘束及び虐待の外部研修に職員が参加して おり、内部研修では言葉遣いやセンサーマット等 を含めた身体拘束について詳細に学んでいる。ま た、認知症について学習し、職員は声掛けについ てケアを統一している。日中は施錠せず、見守り での支援に全職員で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が 見過ごされることがないように注意を払い、防止に努め ている	毎月ミーティングをして話し合っている。利 用者が不快にならない声かけや、否定しな いようにしている。また、周りから注意を受け たときも治すように心がけている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がいて、わかる部分もあるが、まだまだ勉強不足である。今後学ぶ機会をもちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会や、面会時に説明し、理解を得ている。疑問も聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、家族会などで話し合ったことはカルテに記載している。	利用開始時に、苦情や意見の相談窓口や意見箱について説明している。家族の訪問時や電話、家族会などで本人・家族と話す機会を設け、思いや意向を聞いている。年2回家族会を開催し、意見を聴取している。要望から事務室を玄関側に変える等事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内容によって必要なときはミーティングを開催している。	毎月の会議や日々の申し送り時に、職員は意見や提案を行っており、代表は日頃から職員の思いを聞き取っている。職員の提案で、リビングに飾る季節の飾り付けなど役割を分担し、ホーム内の環境の質が向上している。物品管理や職員の勤務シフトなど、職員の意見を多く取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理解不足の点もあるが、話し合ったり、言葉かけなど配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会など開いているが、まだまだ甘いところもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	もう一つの島内のグループホームとの運動会などの交流はあるが、まだまだあってもよいと思う。介護福祉士同士の勉強会なども個人的に行っている人もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話をよく聞き、理解したり、新たな発見を見つけたり、関係に努めている。親身に話すと笑顔でお礼を言われたりしていただけるので、信頼関係もできつつある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族などに、不安と思うことを聞き、信頼関係に努めています。話しやすい雰囲気努め、一緒にケアを考えていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の必要としていることを、みんなの目で見て考え、ホーム内でできることを考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のサポートをうけながら、洗濯や掃除などできる範囲で家庭的なことをして頂けるように、自分に置き換えて考えて介助しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から情報を頂いたりして、利用者の対応に生かしている。広報などでも家族にお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の中で築いていた関係をなるべく切らないようにしている。	本人・家族、以前のケアマネージャーなど関係者から利用者の生活歴等の情報を得て集約している。馴染みの関係を優先し、家族や知人などの訪問や併設施設の知人との交流など自由に行えるよう支援している。また、携帯電話の所有や年賀状の交換等も職員が支援し継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知の方同士はなかなか難しいが、利用者が孤立しないように配慮したり、イベントなどで関われるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時などはホーム内の情報を伝えたりしている。退所後の関係ができていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に昔の話を聞いたり、その人の意志を尊重しようとしているが、なかなか難しい。	利用開始時に本人や家族、前事業所のケアマネージャーから情報を聴取し、フェイスシートを完成し職員間で共有している。利用者本人の発する言葉や正月の書き初めで書かれた文字から思いを把握することもある。日中は利用者が思い思いにリビングで過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴、家族に聞き参考にしている。なかなか生かしきれていないところもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活機能の維持、改善はかり、向上心をもってできることを増やせるよう、職員全体で心がけている。過剰介護にならないようにも注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できるだけ家族の意向や、利用者のニーズに適したケアのあり方について話し現状最適なケアに努めている。	今年から部屋担当者が月間サービス計画を作成している。全職員で毎月のカンファレンス、3ヶ月毎のモニタリングを行っている。職員は介護計画の理解を深める為、月1回勉強会を実施している。利用者には出来ることはしてもらい、過剰なケアにならないよう現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見てもわかりやすいように記録して、勉強会、ミーティングに共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族などと、ある物、できる範囲で日々変化する中で何が一番必要なのか柔軟な支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシー、シルバー人材など利用しているが、できていないところが多く、島内の研修にもっと行き勉強したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム内の様子を受診時報告しかかりつけ医との関係を作っているが、まだ十分でない。	かかりつけ医を継続しており、受診には基本的に家族が同行している。利用者の日常の様子を記録した書面を、家族が病院に持参したり、事業所が直接病院と連絡を取り合う事もある。夜間に対応できる病院が島内で限られている為、事前に家族に説明し協力医に変更する等対応し、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいない。何かあれば病院へ指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーで入院時は報告している。家族から入院時の報告を受け対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしていない。重度化した場合は病院での対応としている。	ホームでは終末期、看取り支援については行わない方針である為、利用開始時に家族に説明を行っている。終末期には家族に適切な病院の紹介を行う等フォローしている。ただし、現段階ではホームで終末期、看取りに関する文書及び同意書を整備していない。	終末期、看取りに関する基本姿勢や取組内容を文書化し、本人・家族に説明後、同意を得る事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命、救急、応急処置の研修は受けたが、すべての職員が不安に思っている。もっと定期的な訓練が必要だと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練は、パターンを変えて取り組んでいる。地域との協力に努めます。	年2回の消防訓練に加え、自然災害の訓練も実施している。実際の夜間帯に自宅待機している職員がホームに駆けつけたり、避難場所までの移動時間を測ったりしている。備蓄品の整備やホーム内の見取り図を玄関や非常口に掲げる等、地域住民の応援も意識した対策を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の自尊心を傷つけないように、その人にあった言葉かけを心がけている。時折出来ていないときもある。	職員は、利用者に対して尊厳を持った言葉遣いを心掛けている。帰宅願望が出ている場合や職員の支援を拒否する時は特に利用者の心情に配慮した対応に努めている。更に、職員間で方法について話し合っている。書類は外部から見えない場所に適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を聞くように心がけ、自己決定できるように働きかけている。まだまだ不十分な所も多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を言われる方は少ないが、無理をさせないように、のんびり、自由な生活が出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人が出来る出来ないの差があるが、清潔に心がけている。入浴時の洋服などもっと選ばせてあげたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることは手伝ってもらっているが、衛生的に難しいところがある。好きな物、嫌いな物も考慮しているが、もっと心がけるべきである。	利用者の嗜好や旬の食材を取り入れた献立を職員が立てている。ホームの畑で収穫した野菜や地元の鮮魚や山菜は、利用者の楽しみとなっている。誕生会や季節の行事食、ホーム内バイキングを企画したり、外食に出掛けるなど様々な形態で食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせて、食事や、水分の量など調整している。また、刻んだり、トロミを付けたら食べやすい努力をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回口腔ケアをしている。自分で出来る範囲はして頂き、その後不十分な点を介助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを知るために一人一人の時間をチェックしたり、回数の記録を行い対応している。日中は、綿パンツやリハパンで対応している場合もある。	排泄パターン表を作成し、各利用者の排泄状況を職員は把握している。ホームではトイレでの座位排泄を支援している。自立を促しつつ、時間や仕草をみてトイレに誘導している。日々、股関節ストレッチを実施し、トイレ移譲が可能になったり、リハビリパンツから布パンツへの軽減など、改善した多くの事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や、水分に注意し、ヨーグルト等で食事にも注意している。それでも便秘になられて時は医師の指示のもとに緩下剤など利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日にち、時間は決まっているが、入浴の温度を本人の希望に合わせてたり、ゆっくり入浴して頂けるように心がけている。	毎日午前中を入浴時間とし準備しており、最低週2回を目安としている。毎日入浴する利用者もいる。拒否時も強制せず、声掛けを変えるなど工夫して誘導している。湯は利用者毎に入れ替え、常に心地よく入浴できるよう配慮している。足浴を実施したり、柚子湯等、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の安眠を考え、なるべく夜休んで、昼起きて頂けるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の効能は理解できていない。名前、個数、時間を確認し本人の手に乗せ服薬、無理な場合は口に入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲の気分転換を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人での外出は難しいが、ドライブ、イベントなど参加して思い出作りが出来るように心がけている。	季節や利用者の体調に配慮しながら、ホーム敷地や周辺を散歩している。畑での作業を楽しんだり、洗濯物を取り入れるなど利用者は自由に行動しており職員が支援している。ドライブや買い物など、希望に応じ常に外出できるよう準備している。花見など季節や景色を楽しむ外出を企画し、皆で外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人お小遣いがあり、本人の意思を尊重してお買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など職員と共に写真などを使い、送っている。小包などのお礼の返事も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感、季節感、日当たりや、換気などを心がけ、壁面には写真、飾りなどをして雰囲気作りに努めている。	日当たりが良く、ゆったりとしたリビングにはソファやダイニングテーブルを利用者の自立を促すように配置している。利用者は思い思いの場所で、気の合う者同士が会話を楽しんでいる。季節毎に壁面を利用者と職員で飾付けを楽しんでいる。職員が清掃、換気し、常に居心地良い環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人居室もあり、居室で過ごしたり、ディルームのソファで過ごされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣替えや、使い慣れた棚やカレンダーなど持ち込まれてはいるが特にこだわりは感じない。施設側としても写真や、プレゼントを飾ったりしている。	利用者がホームに馴染んで暮らせるよう、居室は個人の持ち物を自由に持ち込むことができる。テーブルや収納棚、小物や写真等は利用者が寛ぎやすいように配置しており、家族も小物や写真を持ち込み、飾付けている。居室は職員が清掃・換気し、快適な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危ないと思うことは排除しているが、一人一人の残存能力を活かし、自立に向けた生活を送れるように支援しているが、十分とは思えない。建物も同じような造りでわかりにくいところもあると思う。		